

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行  
第6回フォーラム研究会  
議事録

日時：平成26年7月8日（火） 13：00～16：00

場所：パブリック・アウトリーチ本部事務所

出席者：15名（順不同・敬称略）

木村（PONPO）、足立（元気ネット）、植木（元気ネット）、円満字（PONPO）、大石（PONPO）、釜山（元気ネット）、神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、久保（PONPO）、渋谷（元気ネット）、竹中（PONPO）、中岡（元気ネット）、丸山（PONPO）、諸葛（PONPO）、第1期フォーラム参加者

配布資料

- F6-0. 議事次第
- F6-1. 第5回フォーラム研究会議事録案
- F6-2. 第3回フォーラム反省会メモ
- F6-3. 第3回フォーラムに関するアンケート集計結果（主に自由記述）
- F6-4. 第4回フォーラムスケジュール表（運営者版）
- F6-5. 第4回フォーラムスケジュール表（配布資料版）
- F6-6. 第3回フォーラム模造紙まとめ
- F6-7. ブレーンストーミングの進め方
- F6-8. グループワークの進め方
- F6-9. 第5回フォーラムテーマ案
- F6-10. 第5回フォーラム開催のお知らせ
- F6-11. 第4回フォーラムに関するアンケート
- F6-12. 模造紙の使い方

議題

- 0. 前回議事録確認
- 1. 第3回フォーラムの振り返り
- 2. 第4回フォーラムについて
- 3. 第5回フォーラムについて決めておくこと
- 4. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

## 0. 前回議事録確認（配布資料 F6-1）

木村氏より、資料 F6-1 に基づき、前回の議論の内容が確認された。

## 1. 第3回フォーラムの振り返り（配布資料 F6-2、F6-3、F6-6）

各自が第3回フォーラムに関する資料（F6-2、F6-3、F6-6）に目を通した後、第3回フォーラムの振り返りを行った。主な意見を以下に示す。

### 【運営について】

- ・ 前は、元気ネットのメンバー1名がサブファシリテーターを務めず、フォーラム全体の様子を観察していた。そのため、客観的に各々がどのような役割を担うべきかを評価することができたのではないかと。フォーラムの方法論の見直しに役立ったと思う。
- ・ 前は運営側がファシリテーターを務めた。ファシリテーターがもう少し工夫をすれば、議論が深まり、参加者の気づきも増えたのではないかと。
  - システム化においては、その会合が何を目的にするのか、ファシリテーターを誰が務めるのか等も十分に検討する必要があるだろう。
- ・ ファシリテーター（進行）とサブファシリテーター（記録）の兼任は、人間の能力の限界を超えているように思えた。記録が一部正確でなかった。
  - 「少し待ってください」と止め、話の流れを確認した箇所は、記録が正確だった。

### 【参加者について】

- ・ 市民に歩み寄りの姿勢が見える。特に感情面で専門家に対して親しみを感じているようだ。（そのため、専門家を見る目が甘くなっている可能性もある）
- ・ 市民の質問が曖昧だったため、専門家が答えにくそうにしている場面があった。市民の質問を明確化することをどのようにシステムに取り入れるかが今後の課題だろう。
- ・ 市民は専門家のことだけを見ているが、専門家は市民の他に、他の専門家のことも気にしている（専門家同士が牽制し合っている）様子が見られた。
- ・ 「専門家の意見が一致しない」という意見があるが、「意見」が一致しないのは当然だ。しかし、「はっきりとした情報」が一致しないのは、市民の立場としては困るのではないかと。「情報」と「意見」を一緒くたにして話す専門家も多い。「情報」は「情報」であると分かるように話してほしい。
- ・ 「専門分野、考え方の差が大きい」という意見があるが、これは専門家の実感なのではないかと。専門家同士のコミュニケーションの機会もあればいいと思う。

- ・ 専門家が、「自分の専門ではない」として、回答を控えた場面が目立った。  
→分野が異なっている、「専門家」として見られてしまうのも事実。（非常に難しいことだが、）それに対してどのように対応すべきか考えてほしいところ。
- ・ 専門家の意見が、他人事のように見える（第 1 期も同様の傾向が見られた）。専門家が自分事として考えられるようになるために、運営側としてどうすべきかを考えるべき。  
→「市民に教えよう、伝えよう」という思いの強い専門家が多いのではないか。
- ・ 専門家が、どのように話せば市民に理解してもらえるか、苦慮しながら説明している様子も見られた。専門家からは、「Q&A の繰り返しが大切」という意見も出されている。
- ・ 「何を話すかではなく、誰が話すか」と感想を述べている専門家がいるが、市民は「誰が話すか」ではなく、「どう話すか」を重視しているのではないか。

## 2. 第 4 回フォーラムについて（配布資料 F6-4、F6-5、F6-7、F6-8、F6-10～F6-12）

木村氏より、資料 F6-4 に基づき、第 4 回フォーラムのプログラム案が紹介された。

続いて、木村氏より、F6-8 に基づき、第 4 回フォーラムのグループワークの進め方の案が紹介された。特にグループワーク 1 の進め方について詳細な議論がなされた。決定事項を以下に示す。

- ・ 専門家参加者からの欠席連絡があり、専門家の参加は 6 名になる見込みである。3 グループでは専門家が 2 名になり、十分な議論ができない可能性があるため、今回のグループワークは 2 グループで行う（1 グループあたり、市民 4 名または 5 名、専門家 3 名）。
- ・ ファシリテーターは参加者が務める。（グループワーク 1、2 で交代する）
- ・ サブファシリテーターを 3 名配置する（進行補佐 1 名、記録 2 名）。第 2 回と同様に、意見を誘導したととられないように心がける。
- ・ グループワーク 1 の進め方は以下の通り。（合計 70 分）
  - ①まず、原子力発電が必要と思う理由を整理する。必要ないと思っいても、必要と思う人がなぜ必要と思うのかを考えて書く。意見を付箋に書き、1 人ずつ発表した後にグルーピングを行う。模造紙の半分を用いる。
  - ②次に、原子力が必要でないと思う理由を整理する。必要だと思っいても、必要ないと思う人がなぜ必要ないと思うのかを考えて書く。意見を付箋に書き、1 人ずつ発表した後にグルーピングを行う。模造紙の残り半分を用いる。
  - ③模造紙を交換する。1 枚目の模造紙を見ながら、各自が思うことを自由に述べていく。

- ・ グループワーク 1 の後は、第 2 回同様、全体共有をし、休憩中に質問を募り、グループワーク 2 で質問への回答を作る（30 分）。
- ・ 第 4 回フォーラムでは、次回のテーマを考えるグループワークは行わない。（詳細は議題 3 に記す）

### 3. 第 5 回フォーラムについて決めておくこと（配布資料 F6-9）

第 4 回フォーラムにおいて、第 5 回フォーラムの案内をするために、いくつかの事項が議論・決定された。

第 5 回フォーラムのテーマは、運営側が候補を提示し、参加者に投票してもらうことにした。運営側が提示するテーマ案は、最初の構想も含め、以下の 6 つに決定した。

- ・ もう一度考えよう。「原子カムラ」とは何だろうか？（最初の構想）
- ・ 地球温暖化と私たちの暮らしの関わりとは？
- ・ 情報リテラシー、メディアリテラシーについて考えよう！ その情報信じて大丈夫？
- ・ 相手に伝わる伝え方、聞き方とは？
- ・ 食糧自給率と食品ロスを考える
- ・ 緊急時に私たちはどう行動したらいいのか？

第 5 回フォーラムでは研究関係者および資金提供者の視察の可能性がある。その旨を参加者に告知し、了解を得ることが決定された。

第 5 回フォーラム終了後に懇親会を行うことが決定された。（2 時間程度、会費 2000 円）

### 4. その他

- ・ 第 4 回フォーラムは 7 月 12 日（土）に開催する。運営者は 11 時に集合する。

以上